

特集テーマの設定について

今 田 晃 一

文教大学教育学部教授（同教育研究所所長）

Introduction to Feature Articles

IMADA KOICHI

(Head of Institute of Educational Research, Bunkyo University)

教育研究所紀要第23号の刊行にあたり、まずはご多忙の中、鋭意ご執筆いただいた先生方および本研究所客員研究員の諸氏に心よりお礼申し上げます。

今号の特集論文のテーマは、『学力テスト』についての結果を基にした考察と提言である。2013年12月3日、経済協力開発機構（OECD）は世界65カ国・地域の15歳約51万人を対象に2012年に実施した国際学習到達度調査（PISA）の結果を公表した。日本の平均点は「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」の全3分野で2000年の調査開始以降で最も高く、順位もすべての分野で前回は上回った。また問題解決能力についても2014年4月2日に、日本が3位という好成績が追加で発表された。2003年の調査で順位が急落した「PISAショック」をきっかけに、これからの時代に必要な学力についての議論が再び起こり、単なる知識・技能、教える内容を重視したコンテンツ・ベースの授業づくりから、資質・能力を重視したコンピテンシー・ベースの授業づくりへの大きな転換の契機となった。文部科学省は、育てたい資質・能力からの視点を考慮して作成された全国学力テストでの応用問題などの取り組みが、PISAの好結果につながったとしている。

このような学力テストへの関心が高まる中、2014年度の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）から、都道府県や市町村の教育委員会に対して、市町村や域内の学校の名前を明らかにした全国学力テストの結果公表を解禁した（2013年11月29日:毎日新聞）。さいたま市教育委員会も、2014年度から独自に実施している学力調査の対象を小3から中3までに拡大することを発表した（市内全小中学校162校対象：4月22日実施）。賛否両論あるが、今後も学力テストへの関心とその影響力は教育現場でもさらに高まっていくであろう。

ただ全国学力テストは、その結果に一喜一憂するのではなく、各学校がテストの結果を踏まえて授業を改善し、子どもの学力向上に生かすとともに、教育委員会自身が「域内の学校の学力向上を図るよう有効な教育施策を展開する資料とすること」が、そもそものねらいのはずである。そこで今回の特集では、全国学力テスト、都道府県学力テスト、PISA（国際学習到達度調査）の結果を基にした考察と提言についての論文を募集したところ、多様な視点からの自由な意見・提言をお寄せいただいた。本テーマに関する4本の研究論文を収録した。また特集以外にも、自由研究として本研究所客員研究員および本学専任教員による研究論文3本、実践研究4本、研究ノート3本、実践報告1本、の最新の教育および教育学に関する研究成果を掲載している。本紀要が、教育の諸相に関する新たな知見を提供し、研究・実践の一助となることを切に願う次第である。

最後にPISAや学力テスト、次期学習指導要領においても注目されている育成すべき資質・能力について、現時点で筆者なりに整理したものを資料として次頁に示す。参考になれば幸いである。

資料 2000年以降に国内外で示された資質・能力目標

番号	国内外	資質・能力観	提言元	発表年	提言された資質・能力
1	国外	成人力	OECD国際成人力調査 (PIAAC:ピアック)	2013	<ul style="list-style-type: none"> 〇 読解力 (Literacy) : 社会に参加し、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させるために、書かれたテキストを理解し、評価し、利用し、これに取り組む能力 〇 数的思考力 (Numeracy) : 成人の生活において、さまざまな状況の下での数学的な必要性に関わり、対処していくために数学的な情報や概念にアクセスし、利用し、解釈し、伝達する能力 〇 ITを活用した問題解決能力 (Problem solving in technology-rich environments) : 情報を獲得・評価し、他者とコミュニケーションをし、実際のタスクを遂行するために、デジタル技術、コミュニケーションツール及びネットワークを活用する能力
2	国内	21世紀型能力	国立教育政策研究所	2012	<ul style="list-style-type: none"> 〇 基礎力 : 言語スキル、数量スキル、情報スキル 〇 思考力 : 問題解決・発見力、創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知・適応的学習力 〇 実践力 : 自律的活動力、人間関係形成力、社会参画力、持続可能な未来づくりへの責任
3	国外	キー・コンピテンシー	ニュージーランド(コンピテンシーに基づくナショナルカリキュラムの設計)	2012	<ul style="list-style-type: none"> 〇 言語・記号・テキストを使用する能力 〇 思考力、自己管理能力 〇 他者との関わり、参加と貢献
4	国外	21世紀型スキル	21世紀型スキルの学びと評価プロジェクト (Assessment and Teaching of Twenty-First Century Skill Project)	2009	<ul style="list-style-type: none"> 〇 思考の方法 : 創造力のイノベーション、批判的思考、問題解決、学び方の学習、メタ認知 〇 働く方法 : コミュニケーション、コラボレーション(チームワーク) 〇 働くためのツール : 情報リテラシー、ICTリテラシー 〇 世界の中で生きる : 地域とグローバルのよい市民であること(シチズンシップ)、人生とキャリア発達、個人の責任と社会的責任(異文化理解と異文化適応能力を含む)
5	国外	汎用的能力	オーストラリア(ナショナルカリキュラムの体系的な開発)	2008	<ul style="list-style-type: none"> 〇 リテラシー、ニューメラシー、ICT技能 〇 批判的・創造的思考力、倫理的行動、異文化理解教育、個人的・社会的能力
6	国内	生きる力	現行学習指導要領	2008	<ul style="list-style-type: none"> 〇 確かな学力 : 基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力 〇 豊かな人間性 : 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心 〇 健康・体力 : たくましく生きるための健康や体力
7	国内	学士力	文部科学省	2008	<ul style="list-style-type: none"> 〇 知識・理解 : 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解(多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解) 〇 汎用的技能 : 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能(コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力) 〇 態度・志向性 : 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力 〇 統合的な学習経験と創造的思考力 : 自らが立てた新たな課題を解決する能力
8	国内	幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について	中央教育審議会答申	2008	<ul style="list-style-type: none"> 〇 学習方法に関すること : 児童生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度 〇 自分自身に関すること : 児童生徒自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度 〇 他者や社会とのかかわりに関すること : 他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度
9	国内	学力の3要素	改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂	2007	<ul style="list-style-type: none"> 〇 基礎的・基本的な知識・技能の習得 〇 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 〇 学習意欲
10	国内	社会人基礎力	経済産業省	2006	<ul style="list-style-type: none"> 〇 前に踏み出す力(アクション) : 主体性、働きかけ力、実行力 〇 考え抜く力(シンキング) : 課題発見力、計画力、創造力 〇 チームで働く力(チームワーク) : 発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、ストレスコントロール力
11	国内	新しい時代の職業教育を創造する	中央教育審議会答申	2005	<ul style="list-style-type: none"> 〇 教職に対する強い情熱 〇 教育の専門家としての確かな力量 〇 総合的な人間力
12	国内	就職基礎能力	厚生労働省	2004	<ul style="list-style-type: none"> 〇 コミュニケーション能力 : 意思疎通、協調性、自己表現力 〇 職業人意識 : 責任感、向上心、探究心、職業意識、勤労観 〇 基礎学力 : 読み書き、計算・数学的思考、社会人常識 〇 ビジネスマナー : 基本的なマナー 〇 資格取得 : 情報技術関連の資格、経理・財務関係の資格、語学関係の資格
13	国内	人間力	内閣府	2003	<ul style="list-style-type: none"> 〇 知的能力的要素 : 「基礎学力(主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力)」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」など 〇 社会・対人関係力的要素 : 「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」など 〇 自己制御的要素 : 上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」など
14	国外	キー・コンピテンシー	OECD「コンピテンシーの定義と選択:その理論的・概念的基礎」(DeSeCo)	2002	<ul style="list-style-type: none"> 〇 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力(個人と社会との相互関係) 〇 多様な社会グループにおける人間関係形成能力(自己と他者との相互関係) 〇 自律的に行動する能力(個人の自律性と主体性)
15	国外	PISA学力	OECD生徒の学習到達度調査(PISA)	2000	<ul style="list-style-type: none"> 〇 読解力 : 書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力 〇 数学的リテラシー : 確実な数学的根拠に基づき判断を行い、数学に携わる能力 〇 科学的リテラシー : 科学的知識を活用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力 〇 協調問題解決能力(2015) : 共同で問題に対処し解決する力

* 本表は、国立教育政策研究所「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程の基本原則(2013)」および村川雅弘「これまでの資質・能力を考える」『教職研修、1月号(2014)等」等に基づいて、2000年以降に示された国内外の資質・能力の関する提言を筆者(今田昇一)が整理したものである。